

産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例

(R元年度: 計画作成主体: 東近江市水田農業活性化協議会) (滋賀県)

取組の概要

- 取組の概要 : 輸出産地の形成に向けた体制整備
計画作成主体 : 東近江市水田農業活性化協議会
対象品目 : 水稻 (産地面積: 832.8ha)
取組主体 : 蒲生町農業協同組合、
(有)アグリ蒲生、他8主体
成果目標 : 輸出向け出荷量の10%以上の増加
助成金の活用 : 生産支援事業 (農業機械の導入)
整備事業 (穀類乾燥調製貯蔵施設)



(施設外観)



(トラックスケール)

ポイント

【産地の課題及び取組方向】

東近江市蒲生地域は、水稻主体で麦、大豆等のブロックローテーションを行っており、水稻については従来から輸出用米の取組を進め、輸出向け出荷量は約234tまで増加している。しかし、担い手や集落営農への農地集積も図られているものの、後継者不足等の地区もあり、今後の水田面積の維持が懸念されている。

このため、ントリーエレベーターの機能強化とともに、生産者の労力軽減と担い手等への面積拡大に伴う農業機械の能力向上や集約を図り、所得の安定と作業の効率化を進め、輸出用米を安定的に生産する産地の形成を目指す。

【産地の体質強化に向けた方策】

- ①高品質な玄米への仕上げのための色彩選別機の導入
- ②荷受行程の効率化のためのトラックスケールの導入
- ③水稻の作付面積拡大に向けた農業用機械の導入及びリース導入



(色彩選別機)

推進体制

行政機関によるサポート体制

- ・東近江市
- ・滋賀県
- 東近江農業農村振興事務所



指導・助言

協議会と取組主体との情報共有

東近江市水田農業活性化協議会

- ①計画の策定・管理
- ②取組計画への助言



情報共有
(取組状況等)

蒲生町農業協同組合

- ①取組計画の作成
- ②取組実施 等

地域における独自の取組

【主な取組】

従来より麦跡水稻での輸出用米の取組を行い、H30からは本作での輸出用米の取組を開始

【県・市町村単独事業】

- ①高温登熟性等に優れた品種の開発、普及
- ②令和4年に輸出事業計画について国の認定を受け、全農等と連携を取りながら輸出拡大を推進

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①色彩選別機の導入による品質向上効果と選別処理量の向上
- ②トラックスケールの導入による荷受作業の効率化と荷受処理量の向上
- ③農業用機械の導入等による作業効率の向上

【事業実施による間接効果】

- ①ントリーエレベーターの機能強化により、生産者の乾燥調製設備の投資負担を軽減
- ②農業用機械導入等の導入により、作業効率が増進し作付面積が拡大

